

平成 2 9 年 第 2 0 回

## 江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 2 9 年 1 0 月 2 4 日（火）午前 1 0 時

場 所：教育委員会室

教育長	白 井 正三郎
教育長職務代理者	松 原 秀 成
委員	石 井 正 治
委員	古 卷 勲
委員	上 野 操

事務局	教育推進課長	柴 田 靖 弘
	学務課長	川 勝 賢 治
	指導室長兼教育研究所長	市 川 茂
	学校施設担当課長	高 橋 和 彦
	統括指導主事	中 山 兼 一

書 記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	岡 田 隆 史
	同 主査	栗 間 大 介

白井教育長	<p>開会時刻 午前10時</p> <p>ただいまから、平成29年第20回教育委員会定例会を開催いたします。日程第1、署名委員を決定いたします。松原委員と石井委員にお願いいたします。</p> <p>続いて日程第2、議案の審議にまいります。</p> <p>はじめに第40号議案、江戸川区立学校設置条例の一部改正についてを審議いたします。</p> <p>本件は、議会に上程される前の条例案に関するものであり、政策形成過程にある案件であることから、江戸川区教育委員会会議規則第13条に定める秘密会として審議したいと思います。</p> <p>その発議に賛成の方、挙手をお願いいたします。</p> <p>〔賛成者挙手〕</p>
教育長	<p>全員賛成でございます。これより、会議は秘密会となります。</p> <p>なお、第40号議案については、議案が議会に上程された後に、議事録の公開を可能といたします。</p> <p>〔第40号議案にかかる審議、政策形成過程終了につき公開〕</p>
教育長	<p>それでは、内容について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
柴田教育推進課長	<p>第40号議案、江戸川区立学校設置条例の一部改正についてでございます。ここに1枚目に新旧対照表を付してございます。左側が新ということになりまして、赤字でお示ししてございますが、小松川第二中学校の所在地につきまして、旧平井三丁目20番1号を小松川二丁目10番2号に改正するというところでございます。</p> <p>なお、付則に記載しておりますとおり、この条例は、平成30年4月1日から施行するというものでございます。</p> <p>次のページをごらんいただきたいと思います。今回、小松川第二中学校につきましては、別の用地において、建て替えをしたものでございます。</p> <p>今、工事を行っておりますが、今年度末までには完成の予定で進めてございます。今、お示ししておりますのは、これまでの学校改築の事業についてのご説明の資料でございます。</p>

	<p>1 ページ目の下には、これまでの改築事業の実施状況ということで、8 番目にこの小松川第二中学校の改築日は、28 年からスタートいたしまして、今年度末までの予定ということ、今、進めているところでございます。</p> <p>裏面を見ていただきますと、小松川第二中学校の改築事業についてということで、お示ししてございます。学校の概要、それから地域への説明の状況、改築事業としての概要としてお示ししてございます。</p> <p>そのほかの資料としては、基本設計の配置図、平面図という形で建物の概要、事業結果と今後のスケジュールということで、参考資料をおつけしてございます。</p> <p>ご説明は、以上でございます。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。端的に申し上げますと、新しく学校ができ上がるということで、場所が変わるということでございます。</p> <p>この件に関しまして、ご質問等ございましたら、よろしくお願い申し上げます。</p>
上 野 委 員	<p>資料のほうの改築状況の一覧の中に、小松川第二中学校は、平成28年度から29年で予定になっていますね。その次が、葛西小中学校のほうが29から31というわけで、葛西よりも小松川のほうがちょっと先にオープンするということですか。</p>
教育推進課長	<p>はい。先に開設されることになります。</p>
石 井 委 員	<p>校舎の設計図を拝見いたしますと、普通教室が基本、それぞれの階に5教室あって、4階が6教室ということなんですけれども、これはこの地区でもって中学校、できたとしても5クラス、あるいは多い学年があったとしても6クラスというような、そういうシミュレーションみたいなものができているということでしょうか。</p>
高橋学校施設 担 当 課 長	<p>現在、小松川二中は14学級、約500人おりますが、将来的にはこれが16学級分、加えて転用可能な部屋を合わせると18学級分まで可能ということで、将来展望を見据えた上で、多めにつくっているところでございます。</p>
石 井 委 員	<p>ありがとうございます。</p>

松原委員	夜間学級は、どのあたりになるのでしょうか。
学務課長	夜間学級につきましては、今、現存の小松川二中のほうに当面、据え置く形になります。新校舎に移るのは、基本的には昼間のところになりますので、そういった形となります。
石井委員	設計で工夫されたなと思ったんですけども、体育関係の施設というのが1カ所に集中していて、武道場が地下1階にあって、多分、1階、2階が体育館、その上にプールがあるというような、その設計になっているんですけども、これは経費節減や集中配置させようというような明確な意図があって、やはり設計されたのでしょうか。
学校施設担当課長	経費節減というよりも、一つは構造上の話がございます。学校によっては、こちらに体育館で、あちらにプールというところもございます。小松川二中の場合はその設計のコンセプトとして、委員おっしゃった運動系の建物をまとめて、それから教室というコンセプトでつくっているところです。
教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>それでは、なければ、第40号議案は、原案のとおり決定させていただきます。</p> <p>続いて、日程第3、教育関係事務報告にまいります。</p> <p>まずは、平成29年度全国学力・学習状況調査の分析結果についての報告にまいります。</p> <p>それでは、内容につきまして、指導室長から、お願いいたします。</p>
市川指導室長	<p>机上に2部、報告書を置かせていただいています。一つが小学校の、もう一つが中学校のものでございます。</p> <p>基本的に、両方とも作りは一緒ですが、それぞれ概要を説明させていただきたいと思います。</p> <p>まず、小学校のほうからお話ししたいと思います。こちらは中学校と同様ですが、表紙に書かせていただいたのが、調査日であるとか、調査対象、それから調査目的等でございます。こちらは、例年どおり、毎年やっているものでございます。</p> <p>この調査の特色としては、教科としては国語、算数もしくは数学といった教科でございます。</p>

あと、そのほかに、子どもたちに対する質問調査等もして、日ごろの生活の様子とか、そういったものも調査項目に入っています。

それでは、1枚おめくりいただきまして、1ページをごらんください。こちらが小学校の国語、算数の生徒数の分布状況でございます。

棒グラフのほうが、こちらが江戸川区の本区の子どもたちの分布割合でございます。折れ線グラフのほうが、全国の子どもたちの割合でございます。

まず、国語Aからごらんいただきたいのですが、国語Aについては、全国と江戸川区の子どもたちの状況を見ますと、問題数で言うと10問から15問の間のところで、若干ではあるんですが、全国よりも江戸川区の子どもたちの割合が下回っているというような状況でございます。

それから、国語Bについては、これは本区の子どもたちが8問、9問のところは、本区の子どもたちが全国を上回っているような状況でございます。しかしながら、ちょうど真ん中のあたり、4問、6問、7問あたりが全国のほうが比率が高いような状況でございます。

ですので、国語Bに関して言えば、上位層と下位層は本区のほうが多いと、中間層はやや本区の子どもたちが少ないといったような部分の状況でございます。

続いて、算数ですが、算数は15問、これが満点なんですけども、この子どもたちに関しては、江戸川区のほうが若干ですが割合が高くございます。しかしながら、その下、14問から11問にかけては、全国のほうが割合が高いような状況でございます。

算数B、こちらは8問以上の子どもたちに関しては、ほぼ全国と同じような状況でございます。しかしながら、3問から7問のちょうど中間層になるのですが、このあたりは若干ではありますが、全国を下回っているような状況でございます。

こうした分布状況を踏まえまして、2ページ、1枚おめくりいただきたいのですが、平均正答率で比較しますと、右上に表がございます。国語Aから算数Bまであるのですが、本区については、若干ではあるのですが、全国を下回っているような状況でございます。

東京都のほうについては全国を全体的に上回っていますので、合わせますと東京都の平均、それから国の平均を上回っている調査教科はないといったような状況でございます。

今年度から、国は区とか、都とか、各自治体の平均は、整数のみであらわすというようなことをしています。これは、過度な競争とか序列化を防ぐという目的でそういうふうに行っていると聞いていますけれども、いずれにして

も全国を上回っているような状況は、残念ながら今回はありませんでした。

左側は、それぞれ領域別の項目でございます。多くの領域で全国を若干ではあるんですが、下回っているような状況でございます。

特に、全国との差が顕著なのが、算数でございます。算数Aの図形、こちらがマイナス2.5ポイントと、それから算数Bの量と測定、こちらがマイナス2.6ポイントというように、こちらは差が開いているような状況でございます。

続きまして、3ページ以降が、代表的な問題をピックアップして設計されております。

時間の関係で幾つかだけご紹介したいのですが、まず、3ページの国語A、左側でございます。四角2番の問題ですが、こちらの問題はちょっと小さい字で恐縮ですけれども、実際に山村さんへの手紙をどのようなことを書いていますかといったことを、その説明を読み取って書くといったような出題なんですけれども、こちらについては本区の子どもたちの正答率が全国を2.3ポイント上回っているような状況でございます。

しかしながら、ちょっと課題が明確になったのが、恐れ入ります。4ページをごらんいただきたいんですが、4ページの四角7番の問題、こちらは漢字の読み書きの問題なんです。特に、正答率が非常に全国との差が顕著だったのが、右側の正答率のところをごらんいただきたいんですが、(2)の「キボウ」という字なんです。こちらは、全国の平均が80%に対して、本区の子どもたちは70.7%、ポイント数でいうと9.3ポイントマイナスでございます。

それから、その次の「キゲン」といった読みについても、若干ではあるんですが、全国を下回っているような状況です。しかしながら、(4)の「ジムシツ」については、全国を上回っているような状況でございます。

これらから、課題として特に漢字の書く部分ですね、こちらについては、まだまだ定着に課題があるということがわかりました。

続いて、算数のほうをお願いしたいと思います。ちょっと飛びます。6ページ、お願いします。

6ページの左側、算数Aの四角1番の問題でございます。こちらは、全国を本区の子どもたちが上回っている問題でございます。こちらは、5年生の学習内容なんですけれども、ちょうど割合をこういった図にして考えるといった問題です。こちらについては、結構5年生の内容としては一般的に子どもたち、つまりきが多い内容ですが、本区の子どもたちが全国を3.4ポイント上回っているような状況でございます。

しかしながら、同じページの右上、四角2番をごらんいただきたいのですが、これも5年生の学習内容なのですが、5割る9の商を分数であらわす9分の5とあらわす問題なのですけれども、こちらについては全国を大きく下回っているような状況でございます。

ですので、四角1番、四角2番からわかることとしては、四角1番は、これは授業の中でこういう教え方を先生たちがしていると。こういったことは、非常に本区の子どもたちは定着しつつある、全国の子どもたちよりもしっかり、そういった授業場面は理解できているというふうにわかります。

しかしながら、四角2番のように、これはやっぱり問題をこなして習熟しないと、なかなかこういった問題はできないものですので、ですから、こういった計算というか、こういったものの定着がまだまだ課題があるということがわかります。

以上が、主立った問題の紹介なのですが、次に、少し飛びます。10ページをお願いしたいと思います。10ページ、11ページは、子どもたちの質問紙調査の結果の概要でございます。主立ったものを挙げさせていただきたいと思います。

まず、10ページの左側、基本的な生活習慣のところ、これはテレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていきますかという設問でございます。

こちらは、全国、それから都と比較しますと、こちらについては、江戸川区の子どもたちが都とは大体同じぐらいの割合なのですが、肯定的な回答が全国を上回っているような状況でございます。

こちらについては、ご案内のとおり「江戸川っ子家庭ルールづくり」というのをやっていますので、これの効果が少しずつ出ているのかなと見ています。

しかしながら、否定的な回答は、まだまだ4割近くありますので、このあたりは今後の課題としたいというふうに考えております。

それから、このページの右側ですね、読書の意欲でございます。読書は好きですかという設問なのですが、こちらは肯定的な回答が全国、それから都ともに上回っているような状況でございます。

若干ではありますが、こちらの読書化の成果などは、少しずつ出ているというふうに見ております。

ただ、まだまだ2割以上の子どもたちが否定的な回答をしていますので、そこは大きな課題かなと捉えています。

続いて、11ページ、お願いしたいと思います。こちらが、本区の子ども

たちの大きな課題かなということがわかる内容でございます。

まず、左側が、家で計画を自分で立てて勉強をしていますかといったものです。こちらは、都、それから全国ともに肯定的な回答の割合が本区の子どもたちは少ない、割合が低い状態でございます。

それから、右側の家で学校の授業の復習をしていますか。こちらも、肯定的な割合が全国、それから都を下回っているような状況でございます。

この二つから言えることとしては、これは従来からの課題ではあるのですが、家庭学習が大きな課題というふうに捉えられます。特に、家庭学習も自分で計画を立てて行うとか、あと、それから学校の復習をするとか、そういったところがまだまだ不十分ということがわかります。

そうしたことから、先ほどご紹介した算数の計算の定着とか、そういったところにつながっているものと思います。

それから、12ページは、現在、本区として行っている主な取り組みを挙げさせていただいております。

続きまして、中学校でございます。全般的には、小学校と同様の傾向が見られるのですが、若干分布等違うところがありますので、そのあたりを中心にご紹介したいと思います。

表紙をめくっていただきまして、1ページをお願いしたいと思います。こちらは、生徒数分布でございますが、先ほどご紹介した小学校は調査によっては、例えば満点の子どもたちの割合が全国を上回っているところがところどころあったのですが、中学校に関しては、特にグラフの右側に当たる、いわゆる上位層の部分がかなり全国との差が出ているところが随所に見られます。

特に、顕著なのが数学でございます。数学のAについては25問以上の子どもたちの割合が、全てにおいて全国を下回っているような状況でございます。その分、24問以下が全国を上回っているところが随所に見られるというような状況でございます。

それから、数学Bについても、10問以上の子どもたちの割合が全国を下回っているような状況で、逆に5問以下の子どもたちの割合が全て全国の割合を上回っているような状況でございます。

ですから、小学校に比べますと、特に数学において全国の差が2番目ながら、顕著に出ているような状況でございます。

その正答率なのですが、1枚めくっていただき、2ページ、お願いしたいと思います。右上の平均正答率の比較をごらんいただきたいのですが、こちらについては、特に数学のAなどにおいて、全国との差がかなり開

いているような状況でございます。

それから、左側の領域別の結果についても、国語Aの話すこと、聞くこと、それから読むこと以外は、領域別で残念ながら全ての領域で全国を下回っているような状況でございました。

それから、代表的な問題でございます。3ページをお願いしたいと思います。まず、3ページの左側、国語Aの四角4番、こちらは文章を読んで文章の中に実際には線が引いてあるのですけれども、その文章の見出しの内容を読み取るといったものです。こちらの読み取りの問題については、全国を2.5ポイント上回っているような状況でございました。

しかしながら、国語もこれは小学校と課題が似ているのですけれども、1枚めくっていただいて4ページの漢字の書く・読むのところについては、かなり全国との差が出てきました問題がございます。

特に大きかったのが、1番の1、規模、「組織の規模を大きくする」の「規模」という漢字です。こちらは、全国を10ポイント以上下回っているような状況でございました。

それから、その次の「雨で運動会が延期になる」の「延期」、これも全国から5.8ポイント下回るといったような状況です。

ですので、こういった日ごろの恐らく宿題とか、日ごろの反復の学習の部分に課題があることがこちらからは言えるかなと思っています。

続いて、数学でございますけれども、少し飛びます。6ページをお願いしたいと思います。6ページの左側、数学Aの15番の問題でございます。こちらは、本区の子どもたちが全国を上回っている問題でございます。

さいころの目の出方の問題なのですが、こういった確率の問題ですね、こちらについては、全国を1.5ポイント上回っているような状況でございます。

しかしながら、その右側11番をごらんいただきたいのですが、こちらは、関数の問題です。こちら、特に関数の問題は、中学校の数学の肝になるような内容で、基本的な問題ですね、特に(1)番のYはXの一次関数でそのグラフの傾きは3、切片は2ですと、それでYをXの比であらわしなさいといったような基本的な問題。

それから、(2)は一次関数である関係のものを選ぶといった問題であるやつか、こちらについては両方とも全国を5ポイント以上、下回っているような状況でございます。

ですから、こういった基礎的な部分が残念ながら全国よりも下回っているような状況でございます。

	<p>それから、10ページ以降ですが、10ページをお開きいただきたいと思います。10ページの基本的な生活習慣、それから読書につきましては、こちらは小学校と同じ調査のデータを掲載しています。</p> <p>こちらは、小学校のときの結果と同じように、全国を上回っているような状況が見られます。ですから、こちらも小学校同様に、「江戸川っ子家庭ルールづくり」であるとか、読書科、図書を推進しているとか、そういったことがあらわれているのかなと見ています。</p> <p>それから、続いて11ページでございます。こちらは、家庭学習の設問でございますけれども、こちらも小学校と同様に、全国を下回っているような状況でございます。</p> <p>しかしながら、右側の学校の授業を復習していますかについては、これは肯定的な回答については、都の平均は上回っているような状況でございます。</p> <p>いずれにしても、小学校同様、家庭学習、特に学校の授業の復習等が大きな課題ということは明確かなというふうに思っております。</p> <p>12ページについては、先ほどもお話ししたように、本区における学力向上にかかわる主な取り組みを掲載しています。</p> <p>以上、概要を説明させていただきましたが、こちらにつきましては、各学校に、また校長会等で改めて説明させていただくとともに、区のホームページにも今月末を目途に掲載して、区民の方にも見ていただきたいと考えている次第でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この件に関しまして、何かご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。</p>
石 井 委 員	<p>小学校・中学校全般的にお伺いしたいんですが、質問紙調査というのが後ろにあります、こちらでは相関がかなりはっきりと見られるものを4点とも挙げていただいているんですけども、この事柄は成績に関係なかったねというような、そんな質問はありましたでしょうか。</p>
指 導 室 長	<p>実は、この質問というのは、ものすごい数の質問を子どもたちからとっています。一部を紹介しますと、例えば朝食を毎日食べているとか、そういった基本的なことですね。</p> <p>あと、それから友達関係のこととかも、例えば友達の前で意見を発表する</p>

	<p>のは得意かとか、あとは、先ほどご紹介した家での宿題、学校に行くのは楽しいかとか、あとは、新聞を読んでいるかとか、学校の決まりを守っているかどうか、本当にありとあらゆることを問うています。あと、それから授業のスタイルについても、聞くような設問もあります。例えば、学校の道徳の時間で自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んできたかとかですね、算数の授業は好きかとか、そういったことまで、本当に項目数でいきますと、小学校で76、中学校でも同じぐらいですね、中学校のほうが多かったですね、77ですかね。多岐にわたるご質問をとっていただきました。</p> <p>こちらは、国のホームページとかでは全部載っているんですが、ただ、今回は、本区の施策にかかわる部分をピックアップさせていただいたので、4問だけご紹介させていただいた次第でございます。</p>
教 育 長	<p>今、石井先生が言ったような、あんまり関係なかった質問かどうかというのはわかりませんか。</p>
指 導 室 長	<p>わかりません。ただ、ちょっと補足させていただくと、時間の関係でご紹介しなかったんですが、平均正答率との関係は、大体、当たり前なのかなとは思っているんですけど、肯定的な回答をしている子のほうが、正答率は高いですね。</p> <p>そういった傾向はありますが、ただ、それぞれが設問との相関が詳細な分析までは、実際できていないです。そのような状況です。</p>
石 井 委 員	<p>ありがとうございます。特に、その中でポイントとして知りたいのが、クラブ活動とか、そういうのをやっている、やっていないにかかわらず日常的に運動を積極的にやっているかというようなことと成績は、私は相関があるように感じているんですが、そのポイントだけ教えていただけませんか。</p>
指 導 室 長	<p>直接クラブ・部活というところは、この調査ではしていなかったと思うのですが、ちょっと参考になるのが、例えば地域行事への参加とか、そういったものがあります。</p> <p>こちらも、例えば今、住んでいる地域の行事に参加していますかとか、地域社会で起こっている問題や出来事に興味がありますかとか、こちらについては肯定的な回答の子どもたちのほうが、成績がいい正答率が高いという傾</p>

	向は見られます。
教 育 長	ほかにいかがでしょうか。
上 野 委 員	今、石井先生の話にも関係しているけど、70も80も質問してね、全部回答しているのですか。回答していない子どもが多いとしたら、あんまり意味ないね、というような気がするのだけど。
指 導 室 長	これは子どもたち、相当な時間がかかっているんですが、子どもたちは真面目に回答しています。基本、択一なんです。四つの選択肢から選ぶというような、当てはまるとか、やや当てはまるとか、そういうような四択になっていまして、そこで該当するものをチェックしています。
上 野 委 員	<p>どうも、私だってそんな70も80も質問したら嫌になる。それこそ、何か警察に行って尋問されているみたいで。だから、そういう学習というのは、やっぱり楽しくなるような教育が必要なので、嫌になるような傾向の質問等をやるというのはどうかなと、そういう意味では私、思いますね。</p> <p>それから、もう一つ、家庭学習に関してですけども、授業の復習をしているかというところがね。この家庭学習に関連して、学校以外に例えば塾だとか、そういうところへ行っているかどうかというような質問は入っているんですか。</p>
指 導 室 長	あったかと思えます。
上 野 委 員	塾へ行っている子たちというのは、むしろ学校の復習なんかどうでもいいやという傾向があるのでしょうか。
古 巻 委 員	それ、私も大変大事なご指摘だと思います。教育環境というのは、やっぱりその家庭の経済状況とか、いろいろなものを総合的に掬い出していくもので、ましてこれだけでもって何か本質的なものが見出せるかとなると、今、上野委員がおっしゃったことで塾のことなんか、とても大事な視点じゃないかなと思います。
上 野 委 員	あまりそういうことは知られたくないのかもしれないけども、やっぱり塾へ行っている割合なんかですね、東京都全体と江戸川区とのかかわりとか、

石井委員	<p>いい悪いは別として、実態を知りたいですね。</p> <p>石井先生は、このあたり、感覚で結構ですがどう思われますか。</p> <p>塾に行っている人たちは、下位層はいなくなるような気がしますね。中・上位、特に最上位のほうは、もう塾に行こうが行くまいがすごく頑張っている子だと思います。中位から上位にシフトするという。</p> <p>それと問題に対してのいちゃもんなんといいますか、苦言ですけども、小学生だからってこれはだめでしょうと思うのがありましてね。7ページの6番ですが、正何角形というのを描くときに、分度器を使って角度を測るというのは、基本だめなんですよね。正五角形、真っすぐな定規とコンパスだけで描けるんですけども、ものすごく大変なんです。正五角形を描くのは。</p> <p>設問であるような中心点をとり、72度をはかります、線を引きますというのは、これは邪道なんですよね。分度器で測って描くというのは学習の場における手法としてはやっちゃいけないことだと思います。</p>
指導室長	<p>すみません、お待たせしました。先ほどの塾ですが、ちょっと手元に本区の子どもたちのみというデータはないんですが、全国のほうはありまして、肯定的というか、行っていない子どもは、例えば小学校の6年生ですと、53.3%は学習塾には行っていないと。</p> <p>学校の勉強よりも進んだ内容、難しい内容を勉強しているというのが23.8%、大体4分の1です。</p> <p>いわゆる補習塾なんですかね、学校の勉強でわからなかった内容を塾で勉強しているというのが6.9%。</p> <p>それから、先ほどの難しい内容、それからあとはよくわからなかった内容、両方やっているというのが8.8%。</p> <p>内容としては、どちらとも言えないと、これも曖昧なあれなんですけど、ちょっとよくわからないというような回答が6.8%といったような状況でございます。</p> <p>ただ、これは全国ですので、以前、調査の結果を見たときに、私の記憶では、やっぱり東京都は高いんですね。通塾というのは、高いです。特に、補習より圧倒的には全国もそうですけれども、いわゆる進学塾のほうに圧倒的に割合が高いですね。</p> <p>それから、もう一点、先ほど部活調査の話で、項目がないというふうにご案内したんですが、実際にはありまして、例えば中学生の部活動については、肯定的な回答、参加しているとか、やや参加しているという子どもたちが、</p>

本区では84.1%でございます。

都が83.9%ですので、東京都の平均よりは部活動の参加率は高い。ただ、全国はもっと高くて86.6%でございます。

ですので、地方とかを含めると、本区の子どもたち以上に部活の加入率は高いということがうかがえるかなと思います。

こちらの手元には、正答率の相関のクロス集計したものはないのですが、こちらも以前、私が別の調査等で見た記憶では、こちらの地域活動等と一緒に、部活に熱心に参加している子どものほうが、正答率が高いというような状況が見られました。

ですから、当然、いろいろな子がいるとは思いますが、いろいろな地域行事であるとか、部活動であるとか、あと、学校の特別活動であるとか、そういったことに熱心な子どもたちのほうが、今、平均すると正答率が高いという傾向は見られるというふうに思っています。

上野委員

そこが古巻先生の言われたこと、要するに家庭の教育環境といえますかね。例えば、家庭の問題で、うちで補習しようと思ってもできない環境がありますよね。小さい兄弟がいたり。落ち着いて勉強できないですよね。経済的な問題もある。ここに書いてあるように、うちで補習しているかとか、そういう問題だけではかれないいろいろな問題があるので、じゃあ、どういうふうにするかということなんですけど。石井先生がお話された、塾へ行っているというのは、一番高いレベルには余り寄与していないけど、それまでの間、この底上げですよ。

それから、部活動の相関関係はあるというのも、これもやっぱり教育法ですよ。そういうポイントを捕まえて、学校の教育方針の柱にしないと、1問1問、第1問についてはこうだよ、30問についてはこうだというような比較だけでやっていたんでは、あんまり意味ないと思うんです。

松原委員

分析、ありがとうございます。毎回、こういう分析がされて、他の地元の人にも、今回もやっぱり小学校よりも上級になるに従って、学習時間が減ったり、復習時間がね、こうやって変化する。だから、日本の高校生が一番勉強していないですね。小学生が一番やっている。

その辺については、学校で先生方はやらなきゃいけない。つまり授業をきちんとして研修等、研究をやっていきますね。それは教育委員会が一体となってやっていくことだと思うんです。

あと一つは、ちょっと先ほどの教育長にもお話ししたんですけど、やっぱり

	<p>家庭学習なんですよ。家庭学習をどうやって小さいころからできるかという状態が大きいと思うんです。</p> <p>だから、やっぱり経済力と収入のことも多少あるかもわかりませんが、賢い親御さんを区のいろいろな施設とか、子どもを連れて行って、勉強するような環境設定ができていますよね。</p> <p>確かに、現在は大きな課題だと思うんですけど、やっぱりいろいろな家庭がありますけど、ありますけど、どうやってその子どもたちに家で自分で意図的に勉強するような、復習も含めてなんですけど、それが一番大きな課題であって、そういう点ではPTAにも小中学校の連合会に声をかけたりとか、総合的にやっていかないと。やっぱり家庭学習の学習時間をどう増やすかというのは大きな課題だと思いますね。家でやることと学校でやることという、そのバランスですね。</p>
上野委員	<p>すごく、そう思いますね。いろいろ見ていると、やっぱり母親の影響というのは一番大きいから。何かやっぱり緩やかに情操的なこともやりながら、あんまり義務的にならないで喜んで学習にも行くようなやり方はありますよね。</p> <p>それから、高校生になると勉強しないというのは、これ、原因は何なんですかね。</p>
松原委員	<p>いろいろあると思うんですけどね、大体、アルバイトとか、世界が広がるんでしょう。</p>
教育長	<p>小学校のときというのは、割合と宿題が出ると、みんなやってこないと怒られる、みんなやった。平均的なんじゃないですかね、高校よりはですね。義務教育とはちょっと違うかもしれませんね。</p>
古巻委員	<p>今までの傾向との比較はどうでしょうか。例えば、本区の場合は、この項目1というのはこういう傾向になっている、そのあたりのところを。</p>
指導室長	<p>これは、ざっくりのお話になってしまうんですけども、ここ近年、全国のこの調査と、あと、学年が違いますが、東京都がやっている調査もあります。それは、また別の日にご案内させていただきますけれども。</p> <p>近年の傾向として、ここ数年、中学校の国語がほぼ全国で近くなってきて、全国の差がほとんど見られないような状況に上がってきています。</p>

	<p>これは都の調査ともそうなのですが、ただ、都の平均と全国の平均は若干差がありますので、ですから都の平均までは、まだまだ至っていないのですけれども、中学校の国語はだんだん全国平均並みで、ここ数年推移しているような状況です。</p> <p>ただ、残念ながら算数・数学が、かなり先ほどご案内したように、全国との差が見られる内容がかなりありまして、これは小学校段階から国語に比べてかなり厳しい状況にあります。</p>
古 巻 委 員	<p>例えば、そういうものを最終ページの12ページにありますね、小学校・中学校の。主な取り組みという施策に何とかそういう今、おっしゃったようなことが反映出てきたというふうに、私もさっきから、かなり国語はいいとしても、算数かなり下回っているというのは、何か手は打てないものかなというふうに考えておったんですけども、今後の取り組みのところは。</p>
指 導 室 長	<p>そうですね、なかなか決め手というのはもちろんないんですが、一つの鍵になるのが、先ほどから話題にさせていただいている家庭学習ですね。授業で、例えば計算の仕方とかを学習して、その日のうちにもう一度、家でたとえ10分でもいいので、振り返ったりとか、そういったことを地道に、割と早い学年からちゃんとやっていくことで、だんだん、だんだん、いわゆる低学力層の子が生まれにくいようなところができるのかなと思っています。</p> <p>そのためにも、例えば最終ページにご案内しているんですが、eライブラリアドバンスといって、家庭でのパソコン等で自分で問題が出てきますので、それで回答して、正解とか、そういうのも示してくれるソフトがありますので、こういったものであるとか。</p> <p>あと、東京都のほうは、基本的な問題のベーシックドリルという問題集みたいのをつくっています。それも各学校で授業の中で使ったりとか、宿題に出したりとかしているんですが、そういったものをやっぱり家庭にご理解いただける方がやっていく。</p> <p>いろいろと申し上げましたが、なかなか一朝一夕には結果は厳しいかなとは思いますが、ただ、一人ひとり、1軒1軒のご家庭がそういったことを丁寧に関心を持っていただくというのが、まず第一かなというふうに思います。</p>
古 巻 委 員	<p>例えば、数学に特化した言い方で恐縮なんですけど、先ほど上野委員がおっしゃったように、やっぱり興味が湧かないと、学科に対してに前向きになか</p>

なかなかないと思うんですね。

ですから、今、おっしゃったeライブラリアドバンスというの、子どもたち、あるいは家庭が前向きになって取り組むように、こちらが手を打っていても必ずしもそういうふうにはならないというところもあると。

ならば、数学そのものに対する興味といいますか、例えば、今、数学のおもしろさを説いていく。本にもありますし、そういう方々に本区に何かの形で講演に来てもらって、子どもたちにおもしろさを教えていくとか、そういう生き生きとした生きた数学というもの、そういうものを何か子どもたちに植えつけていくようなチャンスが、少しずつ出てくると、これはいつもというわけにいかないと思うんですけども、年に何回か、あるいは学校を回るといのもいいから、そういうようなことも啓発として、取り組む支援があるとしたらば、おもしろいのかなということを、さっきから考えていました。

指導室長

そういった、いわゆるイベントのような形で出前授業とか、そういったことでやるのも一つのアイデアかなと思います。

あと、それからここ最近の数学だけではないのですが、実生活とかの関連というのが一つの学校の授業のキーワードになっていまして、数学もそうですし、理科とか、他の教科もそうなんですけれども、以前の教科書に比べますと、単元ごとにトピックのようなページがかなり増えてきていまして、例えば関数が日常生活のどういったことに応用できるかとか、教科書に中でそういった記載とかは少しずつ増えています。そういったものを使いながら、日々の授業でいかに先生がおもしろおかしくというか、興味をかきたてるような、これは数と記号しかないけれども、実はこういうところで生かされているんだとか、これがあって今の日本の繁栄があるんだとか、何かおもしろい話をやっていただくというのも重要なのかなと思います。

どうしても学年が進んでいくと、今、勉強していることがあくまでも入試の手段でしかなくて、日常生活には必要ないんじゃないか、と考える割合が増えてくるんですね。いろいろな調査をしますと、そこが日本の子どもたち、特に先ほど話題になった高校生とかの関心のなさというのものもあるのかな。あくまでも、これは大学に入るためには必要だけれども、でも、これが済めば、終わってしまえば関係ないんだよ、みたいな見方をする高校生も多いように聞いていますので、いかにそれが自分の生活とか、社会に関係しているのかとか、そういったところが一つの鍵なのかなと思ったりしています。

教育長

いろいろありがとうございました。それでは、ただいまの報告事項を了承

させていただきます。

以上をもちまして、平成29年第20回教育委員会定例会を終了させていただきます。

閉会時刻 午前10時58分